

資料 3

鮫川村村長 宗田 雅之 様

第 2 回鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議（2024.8.20） 関係各位 様
第 3 期鮫川村総合戦略の策定について「鮫川村デジタル田園都市国家構想総合戦略（素案 2024.7.25）」に対する意見書

東京農業大学 入江彰昭

平素より大変お世話になっております。第 2 回会議に都合が合わず欠席となり誠に申し訳ございません。「鮫川村デジタル田園都市国家構想総合戦略（素案 2024.7.25）」等の資料をお送りいただきまして、ありがとうございます。素案を確認し、鮫川村との関係を含めていくつか思うところを記しました。どうかよろしく願いたします。

鮫川村と東京農業大学の地域と大学との連携は、2000（平成 12）年より「鮫川村里山まるごと体験学校」が始まり、村民（住民）、学生（大学）、役場（行政）との交流させていただきながら、鮫川村の豊かな里山の景観とその文化の知恵や技を学び、その継承に少しでもお手伝いできれば、と活動を続けてきました。

そうした活動を続ける中で、気づかされたことは、我が国における環境共生の理想郷は、里山にあるということです。鮫川村の魅力は多くありますが、なかでも、豊かな里山の景観、文化、それを営む村民と学ぶ子どもたちと、認識しております。医食同源という考えがありますが、美活同源の地域づくりとして美しい村は活力があると考えています。作る人がいてこそ里山は維持され、美しく暮らそうとする村民がいて美しい村になります。地域づくりでは地域の魅力・資源を再認識し、資産化・宝ものとして大切に育み育てることが地域づくりでは重要と考えます。

鮫川村の地域づくりは、2004（平成 16）年の「里山の食と農、自然を活かす地域再生計画」が、総務大臣認定第 1 号として地域づくりのフロントランナーとしてスタートしました。ぜひ、これからも全国に先駆けて活躍いただきたいと思っております。そこで、素案にも記されていますように国策としてのみどりの食料システム戦略の 1 つであるオーガニックビレッジ推進事業は、これまでの鮫川村の取組、手まめ館やゆうきの郷土づくり、給食、交流をはじめとする有機の里づくりの地域計画（バイオマスヴィレッジ構想^{※1}）を、大いに発展させ進めることができると考えます。地域資源循環の里山づくり、環境保全型農業直接支払制度による有機農業、有機の里を学び体験できる学校づくり、里山の伝統文化と技術の継承、エコツーリズムの推進など、枝葉をもった地域づくり構想を描くことができます。その構想の実現に向けた手段としてデジタル技術の活用を描くことです。例えばスマホアプリに見れるように、ゴミ拾いアプリ、食ロスアプリ、公園アプリなど環境アプリは多数あります（私も使用して

います)。これらを活用することで、その地域づくりの情報ツール、計画の評価ツール (PDCA) として活用できると考えます。

本素案の 8 つの将来像と 4 つの施策が、どのようにかわるのかが見れるように、村民にも子どもたちにもわかりやすく描けるとよいと考えます。

SDGs の構想図 (ストックフォルムレジリエンスセンターによる※2) で 17 番目のゴールが上位にあるように、4 つの施策のうち中心的な柱となるのは、8 つの将来像が含まれる 4 番目の魅力的な地域をつくる「人が集まる美しい村づくり」と思えます。

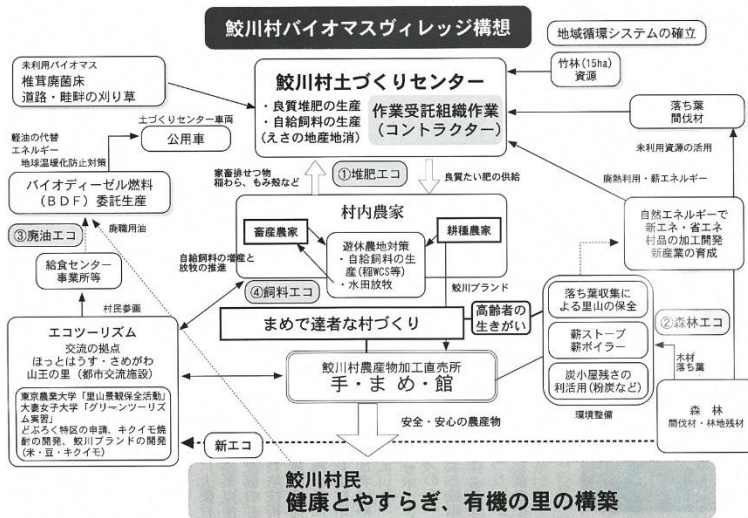
8 つの将来像をバックキャストしたときに、4 つの施策が段階的、あるいは循環的に位置づけられ、鮫川村の里山をベースとした、もの (地域資源・農作物、景観)、こと (文化・営み)、ひと (村民・子ども・関係人口)、情報 (デジタル) がどのようにかわりあうが見えるとよいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024.08.17 入江彰昭 (東京農業大学)

※1 2008 (平成 20) 年鮫川村バイオマスヴィレッジ構想

https://www.vill.samegawa.fukushima.jp/data/doc/1249971341_doc_1.pdf



※2 スtockフォルムレジリエンスセンター

